

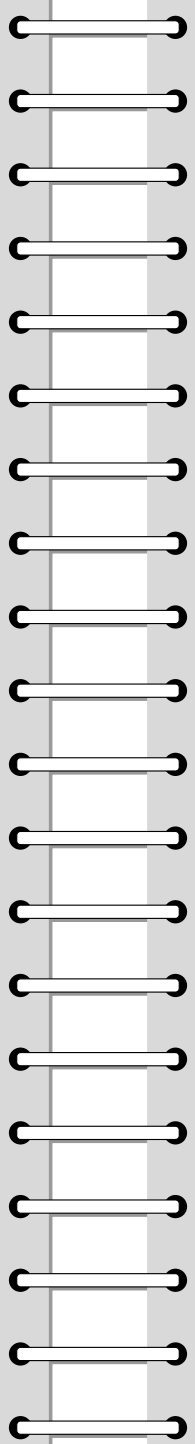
# ガラスと私

私が今の仕事を始めて、ようやく20年。日本でガラス作家というといわゆる吹きガラスの工芸家をイメージされる方が多いかと思いますが、私は窓ガラスなどに使われる建築資材の板ガラスを使って、建築インテリアに関わるガラスアート（アーキテクチュア・ガラスアート）を制作しています。

一般的にステンドグラスは知られていても、それ以外に建築にかかわるガラスアートがあるなんて、大半の方はご存じないのではないのでしょうか。日本は地震が多いということもあって、どうしても海外のように建築にはめ込まれる斬新なガラスアートが制作される機会は少なくなりがちです。私がこの仕事に携わった

頃は、ガラスメーカーに技術的な相談をしても、ポジティブに受け止めてもらえることは滅多になく、安全性や耐久性に関しても、自分自身で試作・実験を繰り返して、その結果に基づいて制作するしか術がありませんでした。注文が3個あれば、4個作って1つは2階の窓から落として試してみるというようなこともよくやりました。近頃は、海外の優れた建築家に触発されてか、日本においても、ガラス建築の技術革新が進み、ガラスをふんだんに使った建物がまちのいたるところに建ち並び、以前よりずっと、ガラスが私たちの生活に身近なものとなりました。

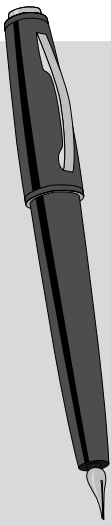
ガラスの魅力はなんといっても、存在がありながら、透過して向こう



にガラスが使われる高層建築においても、ガラスが一枚あるからどんなに高いところでも怖くない。高所苦手症の私は、ビルの窓際に立って「あなたはエライ！」って呟きたいくらいです。

一昔前は、ガラスは割れる、危ない、使にくいというようなイメージが強かったと思うのですが、ガラスはいつしか、覗き見ることができない世界を、私たちの間に立って安全に見せてくれる夢の素材に変わってきているのかも知れません。

かつて、怪我をして試合に出られなくなってしまうお相撲さんなどが、ガラスを作っていた時代がありました。床に大きな縦長の穴が掘ってあり、その穴に向かって、細長い風船を膨らますようにガラスを吹き込みます。長茄子のような形に吹かれたガラスの前後を、ガラス切りで切断して円筒にします。そして、そ



の円筒に縦の切り目を入れて、熱を加え開いて平らにすれば板ガラスができます。一枚一枚がそのような手作りですから、ところどころ厚みも違ったり、泡が入っていたりしました。父の時代は小学校の窓ガラスは外の風景が歪んで見えたこと聞いていますが、まさしくアンティークガラスが使われていたんですね。今は溶けた錫の入ったプールの上にガラスを流し込み、浮かしてつくるフロート製法により、平滑で品質に優れたガラスが容易に量産されるようになりました。そのおかげで私たちの生活の身近なところにガラスが普及していったというわけです。錫のプールから取り出されたガラスはゆっくりと除冷され、切断されるのですが、のし飴のようにラインから出てくるので、運搬さえ可能ならいくらでも長いガラスができると思います。品質も形態も大きく進化しています。品質も形態も大きく進化していつているガラスには、これからはますますいろいろな可能性が開けていくはずですよ。

私がガラスに惹かれているいちばんの理由は、意外に思われるかもしれませんが、ガラスがとても表現性にすぐれた素材だということでしょう。とりわけ「流れ」のイメージを受け止めてくれる媒質としての可能性は無尽蔵で、流れ来て流れ行き流れ去るエフェメラス（短命な、はかないもの）の舞台はガラス以外に考えられない。少なくとも私が作りたい「あえかなもの」「はかないもの」「うつろうもの」「ただようもの」の表現にぴったりな素材です。手で掴み取るうとしても、掴めない、それでいてその存在に触れたり包まれたりしているとの気の遠くなるような心地よさに誘われるようなもの、風、光、水、香り、音……。私にとつて、透明なガラスに絵柄を彫り込むことは、まるで空気に風を描くようなもの。ガラスを積層に接着していくことは、波を幾重にも重ねて深淵を作ること。もっとも美しい光はガラスの光。そう思っていて、日々ガラスに向き合っています。



ガラスアーティスト  
**野口 真里** Mari Noguchi

1962年横浜生まれ。東京造形大学を卒業後、89年に「ガラスアートmarino」を開業。NSGショップ&インテリアデザインコンテスト最優秀デザイン賞、(社)日本ディスプレイデザイン協会ディスプレイ優秀賞等、受賞多数。2002年「マリエンバード工房」設立。「ザ・リッツ・カールトン東京」メインロビーのガラスタワーおよびチャペル、「カレッタ汐留電通タワー」のインテリアオブジェ等、ホテルや学校、商業施設等に多数の作品を提供。

側の世界を見せてくれる透明性です。人間はガラスによって視界を開放されたと言っても過言ではないように思います。例えば、当たり前のように